

- 周溝埋土**
- ⑦褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強。径1cmのV層ブロック多く含む
 - ⑧褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ⑨橙色土(2.5YR6/8)しまり・粘性強。径2cm以下の赤色礫・黄色礫含む
 - ⑩橙色土(2.5YR6/6)しまり・粘性強。径1cm以下の赤色礫・黄色礫・炭化物含む
 - ⑪橙色土(2.5YR6/8)しまり・粘性強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ⑫にぶい赤褐色土(2.5YR5/4)しまり・粘性強。径1cm以下の赤色礫・黄色礫・炭化物含む
 - ⑬橙色土(2.5YR6/8)しまり・粘性強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ⑭褐色土(10YR4/6)しまり・粘性弱。赤色礫少量含む
 - ⑮褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強。径1cm以下のV層ブロック多く含む
 - ⑯褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強
 - ⑰褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ⑱褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強
 - ⑲褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強。径1~3cmの赤色礫含む
 - ⑳褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強。赤色礫少量含む
 - ㉑褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強。径3cm以下のV層ブロック多く含む

- 周溝埋土**
- ㉒赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径2cm以下のV層ブロック含む
 - ㉓赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㉔褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強。径2cm以下の黄色礫含む
 - ㉕褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㉖褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㉗赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㉘赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㉙赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㉚赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㉛赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ㉜赤褐色土(5YR4/8)しまり・粘性強
 - ㉝赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㉞赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㉟褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強。径2~3cmのV層ブロック多く含む
 - ㊱褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強
 - ㊲褐色土(10YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㊳赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む

- 周溝埋土**
- ㊴赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック・黄色礫含む
 - ㊵赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㊶にぶい赤褐色土(5YR4/4)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㊷にぶい赤褐色土(5YR4/4)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㊸にぶい赤褐色土(5YR4/4)しまり・粘性強。径1~2cmのV層ブロック・黄色礫含む
 - ㊹にぶい赤褐色土(5YR4/4)しまり・粘性強。径1~2cmのV層ブロック含む
 - ㊺赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1~2cmのV層ブロック含む
 - ㊻赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強。径1cm大のV層ブロック含む
 - ㊼にぶい赤褐色土(5YR4/4)しまり・粘性強。径2cm大のV層ブロック含む
 - ㊽褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性弱
 - ㊾赤褐色土(5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㊿赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性強

- 盛土**
- ①赤褐色土(5YR4/8)しまり・粘性やや強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ②明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ③明褐色土(7.5YR5/6)しまり・粘性やや強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ④明赤褐色土(5YR4/4)しまり・粘性やや強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ⑤明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ⑥赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性やや強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ⑦赤褐色土(5YR4/8)しまり・粘性やや強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ⑧明褐色土(7.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ⑨明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ⑩明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2cm大の赤色礫含む
 - ⑪明褐色土(7.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ⑫明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2cm大の赤色礫含む
 - ⑬明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径5cm以下の赤色礫少量含む
 - ⑭明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2cm以下の赤色礫少量含む
 - ⑮明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2~3cmの赤色礫多量含む

- 盛土**
- ⑯明褐色土(7.5YR5/8)しまり・粘性弱
 - ⑰褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性弱
 - ⑱明赤褐色土(5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ⑲明褐色土(7.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ⑳明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉑褐色土(7.5YR4/4)しまり・粘性弱
 - ㉒明褐色土(7.5YR5/6)しまり・粘性やや強
 - ㉓明赤褐色土(5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉔明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉕明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉖明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径5cm以下の赤色礫密に含む
 - ㉗褐色土(7.5YR4/4)しまり・粘性弱
 - ㉘明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉙明赤褐色土(7.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉚明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉛明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強
 - ㉜明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径5cm以下の赤色礫多量含む
 - ㉝明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性やや強。径3cm以下の赤色礫含む
 - ㉞赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㉟赤褐色土(2.5YR4/8)しまり・粘性強
 - ㊱明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強
 - ㊲明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1cm大の赤色礫含む

- 盛土**
- ㊳赤褐色土(2.5YR4/8)しまり・粘性強。径1cmの赤色礫少量含む
 - ㊴赤褐色土(2.5YR4/8)しまり・粘性強。径2cm大の赤色礫多く含む
 - ㊵赤土(10R4/6)しまり・粘性強
 - ㊶赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性やや強。径2~3cmの赤色礫含む
 - ㊷赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性やや強。径2~5cm以下の赤色礫含む
 - ㊸赤土(10R5/8)しまり・粘性やや強。径2~5cmの赤色礫含む
 - ㊹暗褐色土(10YR3/4)しまり・粘性弱。径2~5cmの赤色礫含む
 - ㊺暗褐色土(10YR3/4)しまり・粘性弱。径2cm以下の赤色礫少量含む
 - ㊻明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ㊼明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ㊽明赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性弱
 - ㊾赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性やや強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ㊿明赤褐色土(5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2cm以下の赤色礫含む
 - ㊱ナリフ褐色土(2.5Y4/6)しまり・粘性やや強。径1cm以下の赤色礫・黄色礫含む
 - ㊲褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性弱
 - ㊳赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性やや強。径1cm以下の赤色礫・黄色礫含む
 - ㊴明赤褐色土(5YR5/8)しまり・粘性やや強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ㊵明赤褐色土(5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2~5cmの赤色礫含む
 - ㊶明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ㊷明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1cm大の赤色礫含む

- 盛土**
- ㊸明褐色土(7.5YR5/8)しまり・粘性強
 - ㊹暗褐色土(10YR3/4)しまり・粘性弱。径2cm以下の赤色礫少量含む
 - ㊺褐色土(5YR6/8)しまり・粘性強
 - ㊻暗褐色土(10YR3/4)しまり・粘性弱。径2cm以下の赤色礫含む
 - ㊼明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ㊽明赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ㊾暗褐色土(10YR3/4)しまり・粘性弱。径2cm以下の赤色礫少量含む
 - ㊿明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ㊱明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ㊲赤褐色土(2.5YR4/6)しまり・粘性強。径1~2cmの赤色礫含む
 - ㊳明赤褐色土(5YR5/8)しまり・粘性やや強。径2~5cmの赤色礫含む
 - ㊴明赤褐色土(2.5YR4/8)しまり・粘性強。径1~5cmの赤色礫含む
 - ㊵赤土(10R4/6)しまり・粘性強。径2~5cmの赤色礫多量含む
 - ㊶褐色土(7.5YR4/6)しまり・粘性強
 - ㊷黄褐色土(10YR5/8~7.5YR6/8)しまり・粘性やや強
 - ㊸赤土(10R4/6)しまり・粘性強。径1~2cmの赤色礫多量含む
 - ㊹明赤褐色土(2.5YR5/8)しまり・粘性強。径1cm大の赤色礫含む

第51図 28号墳填丘・石室土層断面図

第51図 28号墳填丘・石室土層断面図

採り、この軸は墳丘の傾斜に沿っている。玄室部は長さ3.1m、幅1.6～1.7mを測り、羨道部は東側壁の長さが3.1m、袖付近の幅が1.0m、開口部付近の幅が0.4mを測る。開口部付近で閉塞施設を確認している。閉塞施設北端から奥壁までは約4.5m、閉塞施設を除いた羨道の長さは1.4mとなる。壁面の残存高は、奥壁1.5m、東側壁1.3m、西側壁1.4mを測る。

使用石材 石室石材には割石と自然石が用いられる。割石の石材には、黄灰色を呈する粗粒の安山岩質凝灰角礫岩(以下、石材Aと呼称)と、灰色を呈する硬質緻密な安山岩質凝灰岩あるいは安山岩(以下、石材B)が用いられる。石材Aを用いた割石は表面が平滑に整えられるが、石材Bではそうした加工はほとんど行われぬ。この差は石材の加工のしやすさに起因するものであろう。使用される数は石材Bのほうが多いが、特に大型の石材には石材Aが使用されている。自然石には割石石材Bと同質の岩石と、調査地内の地山で産する安山岩または流紋岩が用いられる。

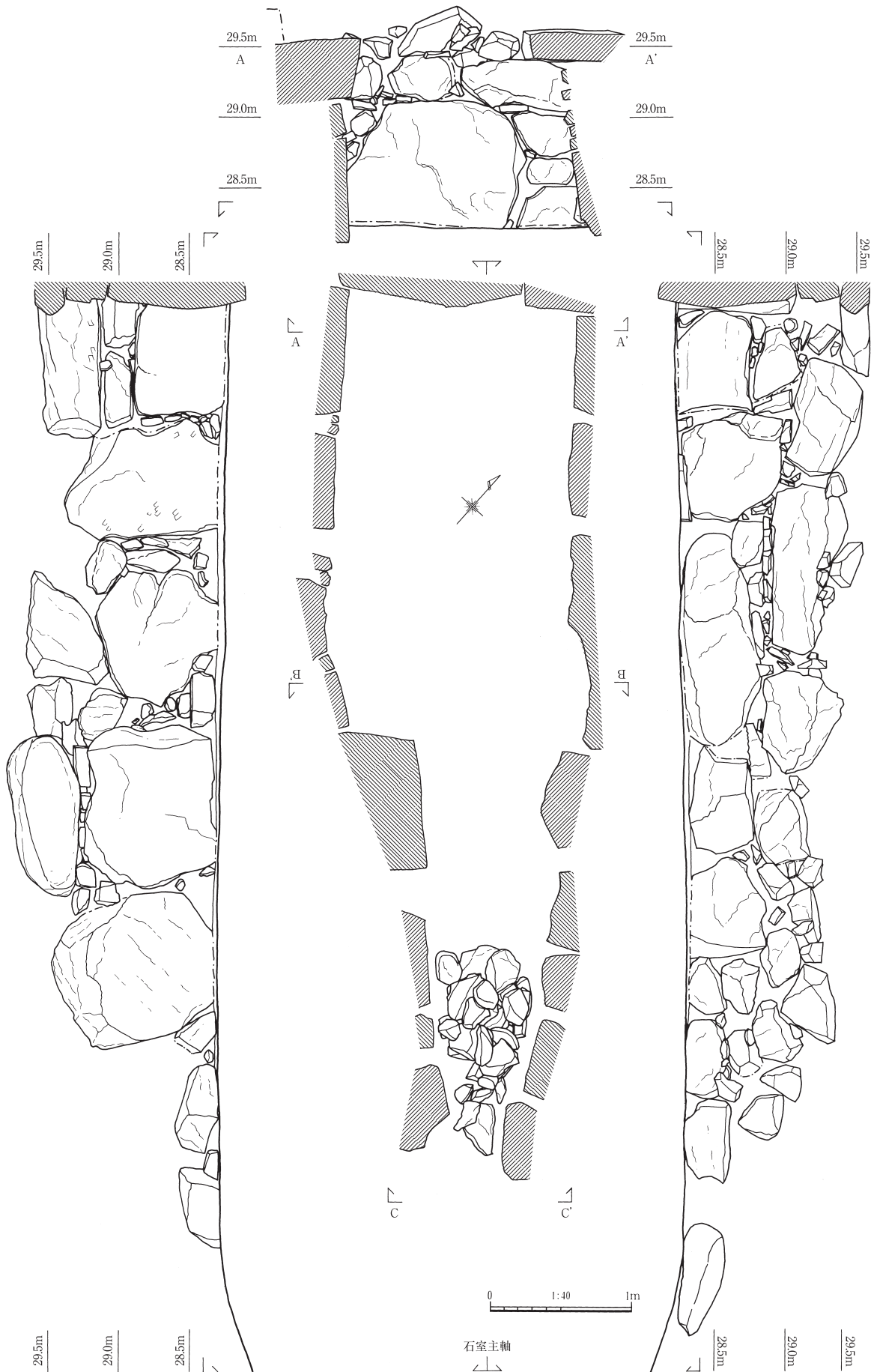
石材Aおよび石材Bの割石・自然石には角礫～亜角礫と亜円礫の2種類の形状が見られる。角礫～亜角礫は岩盤露頭から直接割り出したか、露頭近辺の転落石を採取したものであろう。一方の亜円礫は水磨を経たものを河川などで採取した可能性が高い。割石はこれらの原材を分割、加工したものである。なお、凝灰岩類は地質的には松原付近に存在する岩石ではあるものの、近隣地域に同質の岩石を産する大規模な露頭が存在するかどうかは確認していない。

壁面構成 石材の組み合わせ方は壁面ごとに異なっているが、全体的に粗雑で、主要石材の隙間には小型の石材や込め土が充填されているほか、主要石材同士の目地もほとんど通っていない。

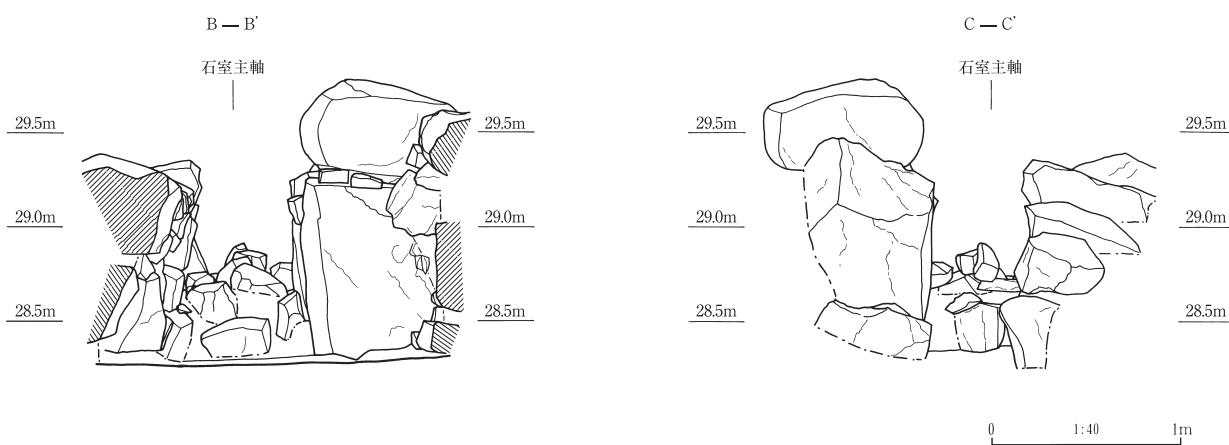
奥壁は大きく見て3段で構成される。1段目は、大型の板石を立てて、その東側に1列3石の中型石材を積んでいる。これらの石材は表面が整えられた割石を用いており、特に石材Aを用いる大型板石の表面は平滑に整えられている。なお、奥壁に接する両側壁の基底石がいずれも奥壁基底石より手前に組み合わせられていることから、奥壁基底石が最初に設置された石室石材と考えられる。2、3段目には割石または自然石を長手積みする。3段目右端の石材は、玄室北東隅に東側壁から奥壁にまたがって積まれているもので(第55図参照)、おおよそこの高さ付近から天井石架構の構造が形成され始めていたものと推定される。

東側壁は他の壁面と比べて粗雑で、石材間の隙間が大きい場所が目立つ。東側壁玄室部では大型・中型の割石を2～3段に積んでいる。石材の組み合わせ方はおおむね長手積みであるが、奥から1・2石目の基底石は平側を内に向けて立てている。この2つの石材には表面が平滑に整えられた石材Aの割石が用いられている。また、3石目基底石の上辺内側には小型の板石が小口積みで並べられており、これによって水平をとることで2段目の石材を安定させている。なお、石室プランとして示した水平断面図では、3石目の基底石が奥に入り込んで小さな袖があるように見えるが、これはこの基底石の下部が抉れているためで、意図的に袖を造り出したものではない。東側壁羨道部の壁面は3～4段で構成されており、石材の積み方は基底部が長手積み主体、上部が小口積み主体である。羨道部の基底石は、奥の2石では玄室基底石と高さが揃うやや大型の割石を用いるものの、開口部側の3石は高さが奥の基底石の半分ほどの中型礫を用いている。そのため、組み合わせの段数が奥側3段、手前側4段と途中で変化している。2段目以降は中型・小型の割石や自然石を乱雑に積み上げている。

西側壁は基底石に大型の石材を用いており、東側壁よりも少ない石材で構成される。玄室部では大型・中型の割石が2～3段に積まれている。玄室部基底石は3石とも平側を内に向けて立て並べている。いずれも表面を加工して面を整えていて、特に石材Aを用いる奥2石の表面は平滑である。なお、



第52図 28号墳横穴式石室展開図(1)



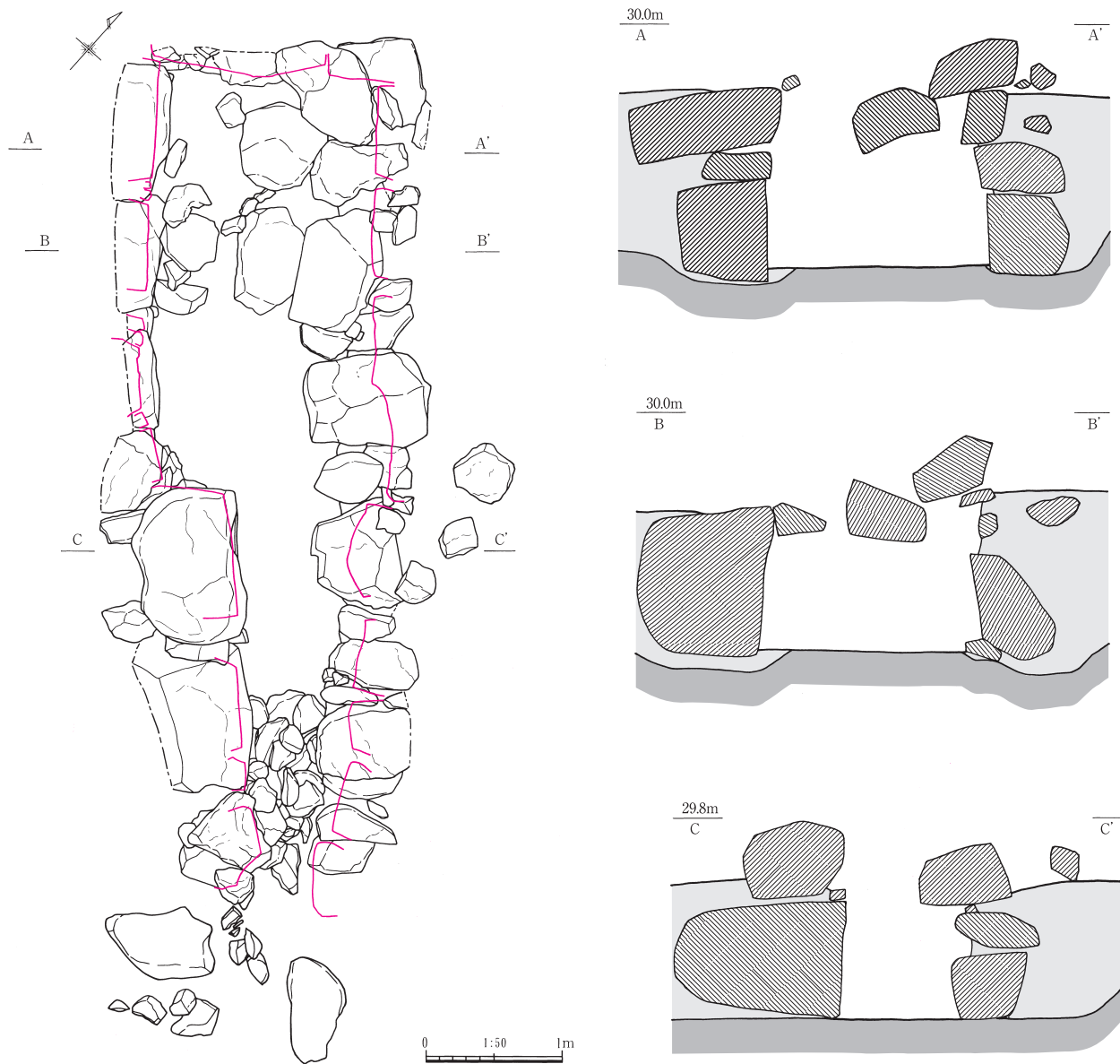
第53図 28号墳横穴式石室展開図(2)

奥から2石目のものには、鑿状の工具による幅約5cmの加工痕がわずかに観察できた。基底石2石目と3石目、3石目とその南の袖石の間には大きな隙間があり、ここには小型石材を充填している。西側壁玄室の2段目以上は石材の残りが悪く、全体の構成は不明である。奥から1石目の基底石上にはさらに2段の石材が積まれる。2段目には2石の割石が長手積みされ、3段目には大型の割石が1石小口積みされる。3石目基底石上には不整形な石材が1石のみ小口積みされる。西側壁羨道部は残りが非常に悪く、全体の構成がほとんど分からない。西側壁羨道部の奥から1石目は袖石である。袖石は石材Aを用いた大型の割石で、石室内部に露われる北側と東側の2面は平滑に整えられている。この袖石の上には大型の垂円礫が長手積みされ、その間には安定をとるために小型の板石が小口積みで詰められている。袖石の南側の基底石も大型の割石で、平側を内に向けて立てている。この基底石は石材Bながら表面がかなり平滑に仕上げられている。この南側は残りが非常に悪く、原位置を保っていることが確かな主要石材は中型礫1石のみである。あまりに情報が少ないが、東側壁羨道部の開口部付近と同様な構成になっていた可能性が考えられるだろう。

残存していた壁面の構成は以上であるが、原位置を保っていなかった石室石材にも本来の石室構造を推定する上で有用な情報が含まれているので、以下に追記しておきたい。

石室上面の検出時に、東側壁上では、内側にずれ落ちかけた主要石材を玄室で5石、羨道袖付近で1石検出した。これらは原位置からの移動が小さいと考えられるため、東側壁には少なくとももう一段石材が積まれていたことが確実である。これらを復元すれば、東側壁の玄室から袖にかけての高さが標高約29.7m～29.9m程で揃ってくる。この高さは西側壁で最も高い袖石2段目石材の上面と揃っているため、玄室から袖までは少なくともこの高さまでは石材が積まれていたと推定できる。他にも、完全に転落した石材が玄室内の埋土上層で検出されており、これらも側壁に積まれていた可能性が高い。これらがどちらの側壁に積まれていたかは判断しがたいが、西側壁の基底石1・2石目の上に載っていたものと考えれば、その上面はおおむね先に推定した東側壁上面の高さに揃う。

また、28号墳周辺からは、石室の石材を再利用して構成されたものと思われる集石1～4が検出されている(第69図参照)。構成礫のすべてが石室石材とは限らないものの、破壊が顕著な羨道部を中心に相当量の石材が石室から取り外されたと考えられる。石材は大型のものでも1m未満で、大半は中型・小型のもので構成されているため、いずれも壁面の構成材であったと見るべきだろう。集石の他にも墳丘上で、長さ1.45m、幅0.75m、高さ0.6mの大型石材、墳丘裾付近で長さ1.0m、幅0.8m、高さ0.7



第54図 28号墳横穴式石室検出平面図・断面図

mの大型石材が検出された。これらの石材(特に前者)は羨道部の天井石であった可能性も考えられよう。このほか、墳丘下の谷部でも石室から転落した可能性の考えられる大型・中型の石材を8石確認している。ただし、最も大きいものでも長さが1m未満なので、天井石ではないだろう。

以上のように多数の石材が28号墳周辺で見つかっている。これらがすべて組み合わさっていたのであれば、先に推定した側壁上面よりも壁面がさらに高かった可能性もある。その場合、壁面全体が高かった可能性とともに、玄室壁面やその一部のみが高かった可能性も考えられる。

<閉塞施設>

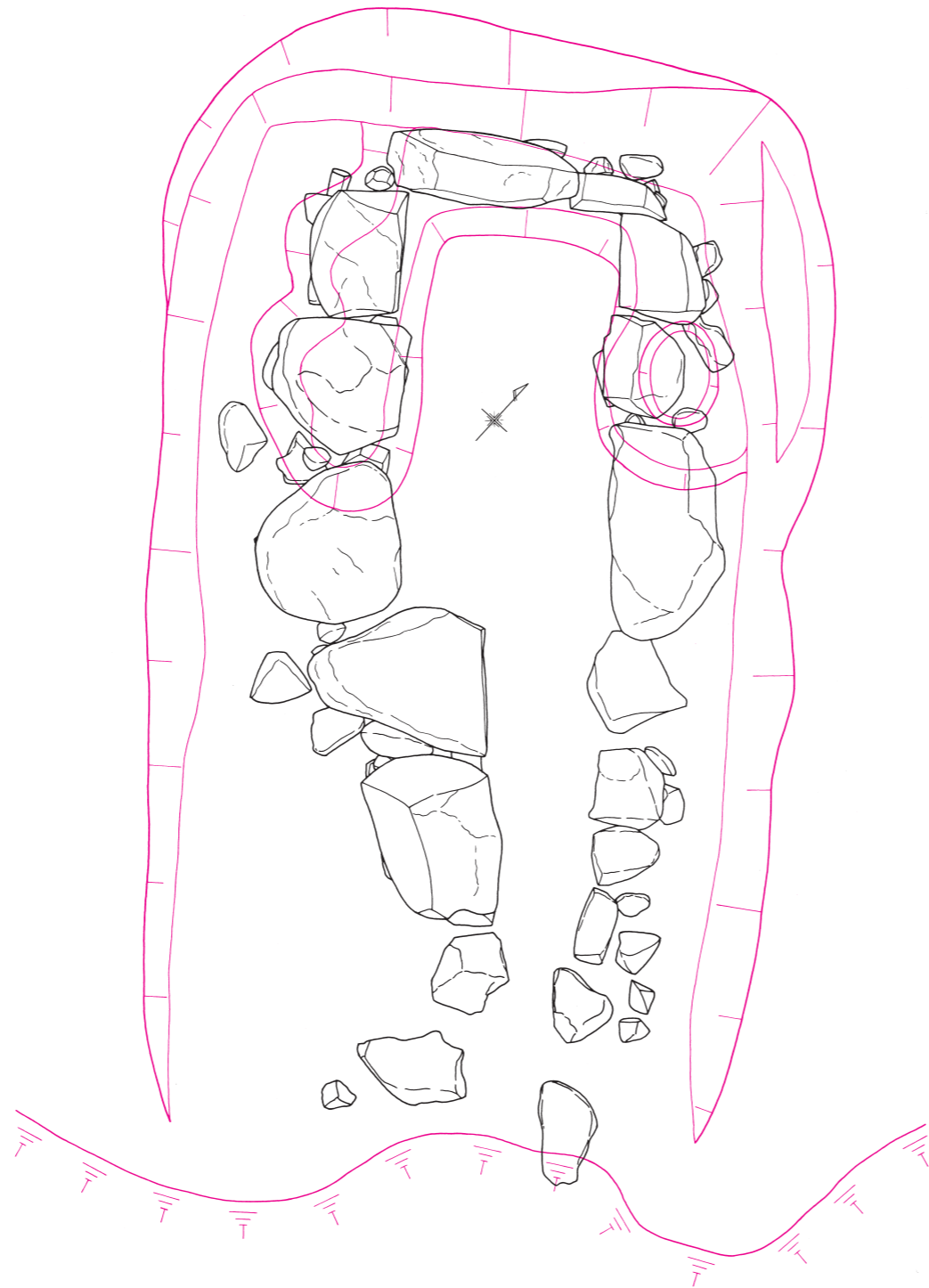
羨道南端部付近で、礫集積によって構築された閉塞施設を確認した。閉塞施設の石材は、袖の南約1.4mの位置から側壁のほぼ南端部に渡って検出しており、その規模は、長さ約1.5m、幅0.6m、高さ約0.8mを測る。床面付近では側壁と閉塞石材の間にはわずかに隙間があるが、閉塞中位では側壁と閉塞石材が接している。

閉塞施設の石材には、石室壁面石材と同種の割石または自然石が用いられている。礫の大きさは、

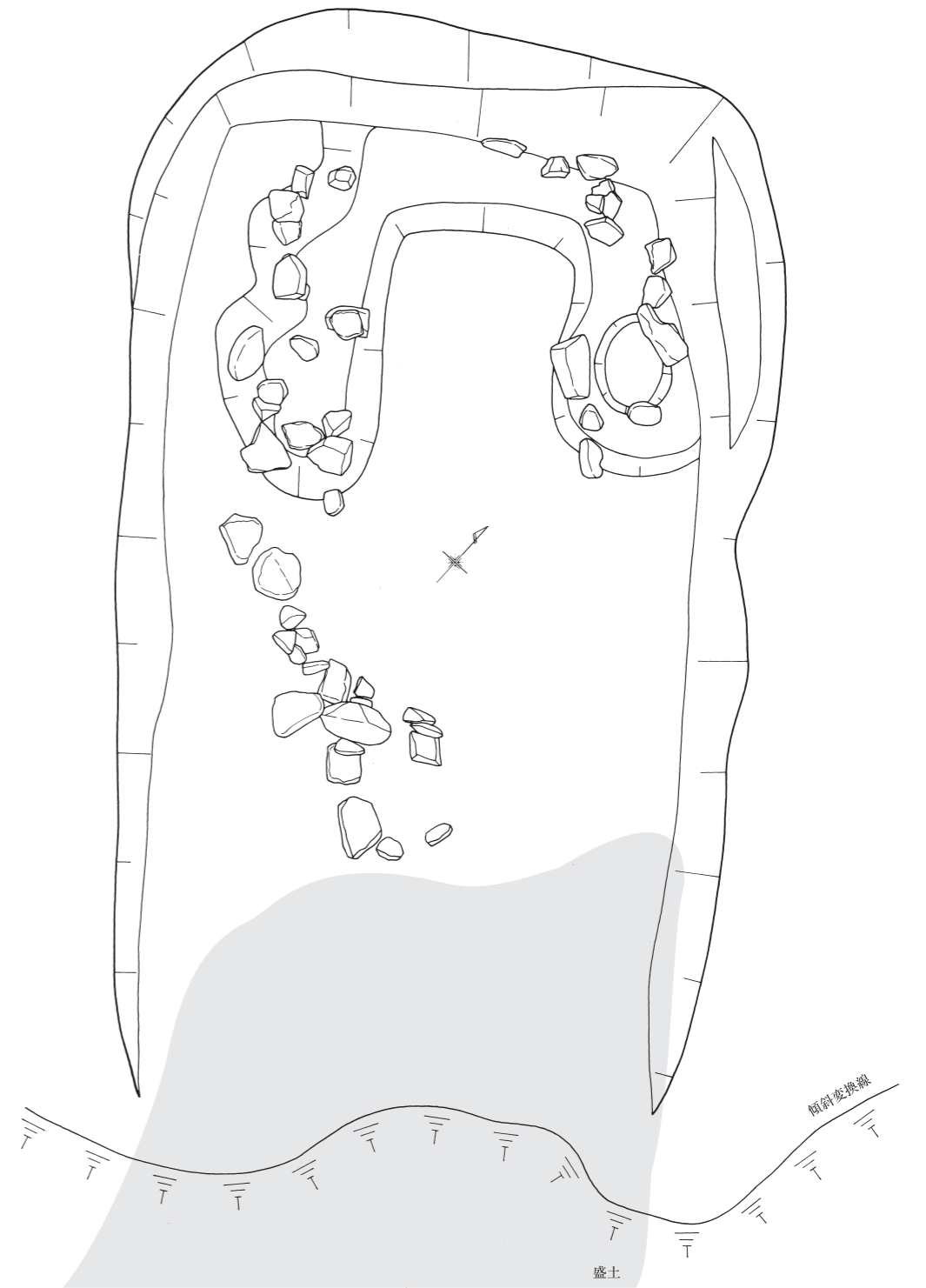
石室平面图



石室基底石平面图



石室掘方平面图



0 1:50 2m

第55图 28号墳横穴式石室平面图

主体となる長さ20～30cm程のものほかに、長さ50～70cm程のものも見られる。石材の積み方は粗雑で、石材間の隙間が非常に多く、隙間には土が充填されていた。この充填土は褐色土の上層(77層)と赤褐色土の下層(78・79層)に分けられるため、複数の閉塞施設に分離できる可能性も考えた。しかし、石材の種類や積み方は上下層の間で全く変化せず、むしろ連続的に積み上げたと考えたほうが自然であるため、土層の違いは同じ閉塞施設内での充填土の質の違いであると判断した。

閉塞施設が設けられる羨道南半部では、先述のように、側壁の壁面構成が玄室・羨道北半と比べて段数が多く、石材の積み方に変化が見られる。この部分では中・小型礫が乱雑に積まれており、石材同士が支持しあって壁体を構成するのではなく、むしろ土に石材が埋め込まれたような外観を呈している。このような積み方が見られる範囲と、閉塞施設が広がる範囲とが一致することから、石室構造上の境目となる位置を中心に閉塞施設が設けられていたと考えられる。例えば、羨道南半部上には天井石が架構されていなかった可能性などを考えることができ、その場合には天井石の前端と閉塞施設の北端～中心が位置的に揃っていたと考えられる。

また、閉塞施設前面には前庭部をともなっていた可能性が考えられる。しかし、本来の石室開口位置が確定できないため、前庭部の位置も判然としない。開口部の破壊を小さく見積もって、先の想定のように閉塞付近を開口部と考えれば、そのすぐ南の狭い平坦面までが前庭部またはその一部と捉えられるだろう。開口部の破壊を大きく見積もれば、平坦面南側の緩斜面付近までを前庭部あるいはその痕跡と捉えるべきかもしれない。いずれにしても、墳丘表面の地形を見る限りでは、広い平坦面をもった前庭部テラスは存在していなかったと考えられる。

<石室掘り方>

石室掘り方は丘陵南斜面を「コ」の字形のテラス状に掘削して、石室構築面となる平坦面を造成している。掘り方の規模は、長さ約8.3m、幅約5.0m、北壁の高さ約1.3mである。北端部の底面には幅0.7～1.0m、深さ約15cmの「コ」の字形の溝がさらに掘り込まれている。掘り方は地山V層を大きく掘り込んでおり、底面溝内では軟質の岩盤が露出する。床面南端部には薄く盛土が施されている。掘り方掘削後、床面の高さが足りなかった斜面部分に盛土を行ったのであろう。この盛土の下には地山IV層が堆積していることから、旧表土は除去されているものの、本来の旧地表面からあまり深く掘り下げられていないことが考えられる。この部分以外では硬質な地山V層が石室の床面となる。

北壁際の床面溝は、奥壁と両側壁の2石目までの基底石を据え付けるために掘削されたものである。特に側壁部分の溝は、石材の形状に合わせて掘り方が部分的に掘り込まれている。ここに据えられた基底石はいずれも平側を内に向けて立てていたことから、その底部を埋めることで安定を図っていたものと思われる。溝の中からは小礫や置き土が検出されており、これらによって基底石の設置の高さや角度を調節している。また、西側壁の袖とその南の基底石の下もこうした小礫が見られる。この2石はかなりの大型礫のため、小礫をかませることで安定をとる必要があったものと思われる。使用石材が小さい東側壁の基底石下にはこうした小礫は見られない。

基底石と掘り方の平面的な関係を見ると、玄室基底石の東西の外法と掘り方の幅がおおむね同じであることが分かる。細く見ると、東側壁では基底石と掘り方壁面にほとんど間隔がない一方で、西側壁では多少の間隔があいている。この差はその使用石材の大きさの違いによるものであろう。また、掘り方が一定幅で掘られているため、当然のことながら、袖を形成する西側羨道部では基底石と掘り方の間隔が非常に大きくなっている。

横穴式石室・墳丘の構築過程(第51図)

墳丘や石室構造について個別に記述してきたが、土層断面の観察からは石室構築から墳丘盛土に至る築造過程をある程度復元できるので、以下に順を追って記述しておく。

残存部分の構築過程は次の4つの段階を経ていることが分かる。

第1工程 整地・石室掘り方掘削

古墳構築前に旧地表を整地し、これと同時にそれに引き続いて、石室掘り方を掘削する。その後床面の一部に盛土を行い、石室構築面・石室床面を平坦にする。少なくともこの段階までには石室のプランが確定していたのであろう。掘り方は構築される石室に適合した大きさと掘削されている。

第2工程 基底石設置→石室裏込め

基底石を奥壁から順に設置する。掘り方底面に石材設置溝が掘削されていたことから、この部分への基底石設置が先行していたと考えられる。このことから、各石材の配置があらかじめ決まっていたことが分かる。基底石を据えた後に、基底石の裏込めを行う。裏込めには、地山Ⅳ層起源の黄色系土とⅤ層起源の赤色系土が互層状に詰められる。土層断面図では、奥壁の94～99層、西側壁玄室の113～118層、東側壁玄室の129～131層、西側壁羨道の139～143層、東側壁羨道の149～152層がこの段階にあたる。この裏込めによって、石室掘り方の掘削部分はすべて埋められる。

第3工程 2段目石材設置→盛土・石室裏込め

壁面の2段目石材を設置した後、石材の裏込めと盛土を合わせて行う。盛土が先行してその後に裏込めが行われる部分(西側壁玄室)と、盛土と裏込めの区別がなくほぼ一連の盛土のように行われる部分が見られる。土層断面図では奥壁の83～93層、西側壁玄室の105～112層、東側壁玄室の123～128層、西側壁羨道の137・138層、東側壁羨道の147・148層がこの段階にあたる。

第4工程 3・4段目石材設置→盛土・石室裏込め

壁面の3・4段目石材を設置した後、石材の裏込めと盛土を合わせて行う。第3工程とおおむね同じであるが、第4工程では石材の裏込めを盛土と区別した単位で行う部分はない。土層断面図では奥壁の80～82層、西側壁玄室の101～104層、東側壁玄室の119～122層、西側壁羨道の132～136層、東側壁羨道の144～146層がこの段階にあたる。

第5工程以降 4・5段目以降の石材設置⇔盛土・石室裏込め→天井石架構→墳頂部盛土

第4工程の後、さらに壁面を積みながら盛土を行い、その後天井石を架け、その上に封土を施して28号墳の構築作業は終了する。

石室内出土遺物(第56・57図、表4・11・12)

石室内から出土した遺物の数は多くなく、原位置を留めた副葬品は出土していない。遺物は石室内流入土に包含されるものが大半を占め、ほとんどが破片であった。流入土は、乱掘時に掘り返された墳丘盛土や石室埋土などが中心となって、石室上部から石室内に流れ込んだものと考えられるので、これに含まれる遺物の本来の帰属には、石室内、28号墳墳丘上、28号墳盛土内、28号墳以外など、あらゆる可能性を想定できる。

玄室部では82～85の須恵器、90の土師器、F15～F17の鉄器片、J74の耳環が出土した。82の坏蓋は破片が羨道でも出土するなど広範囲にわたって散在しており、石室外から破片が流入したと考え

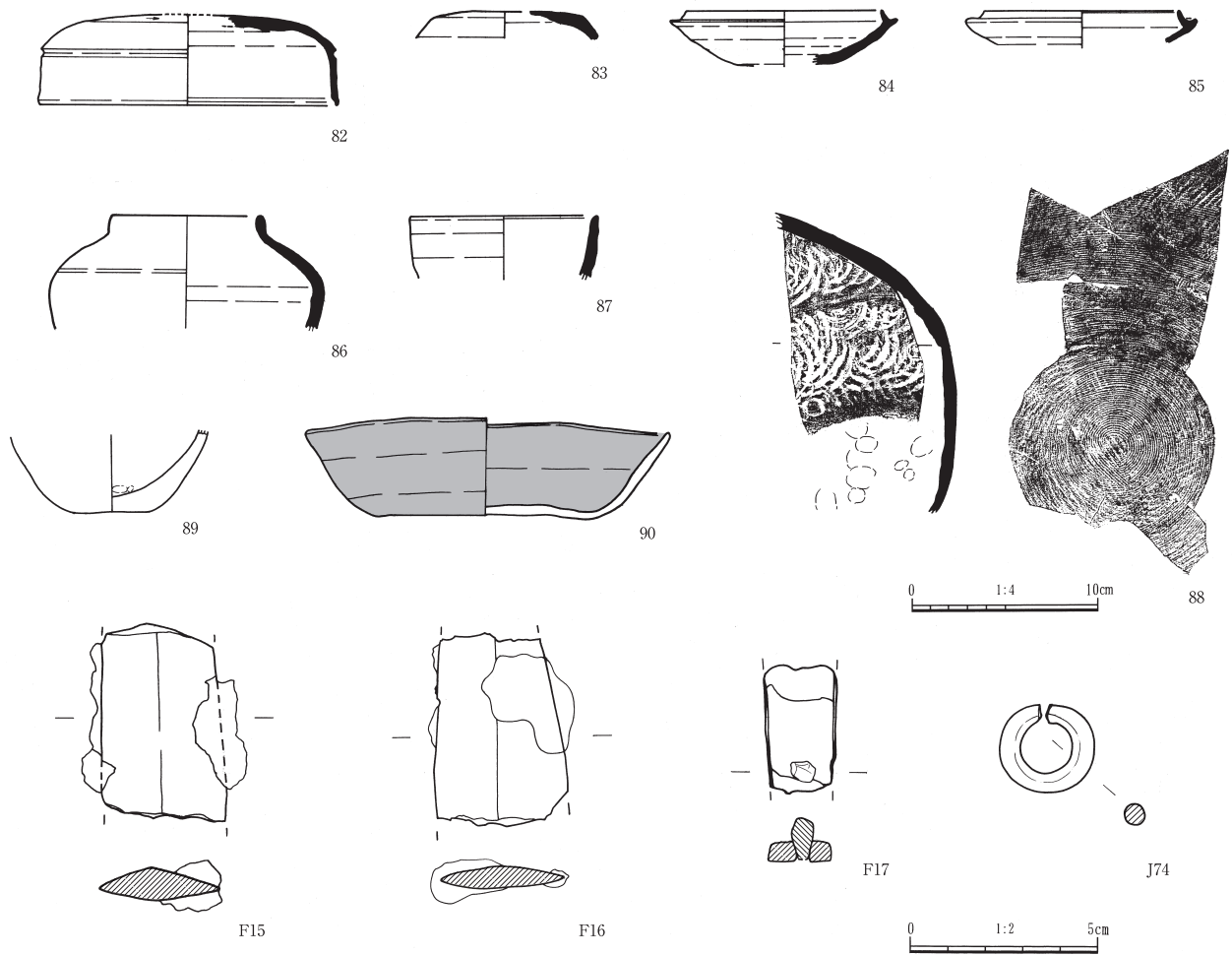
られる。本古墳築造時期よりも明らかに古いものと考えられることから、他の古墳の副葬品ないしは供献土器であった可能性が考えられよう。83は蓋で、流入土からの出土である。84・85の坏身は田辺編年TK217型式並行と考えられる。84は流入土からの出土であるが、85は床面付近から出土している。流入土から出土した土師器坏90は8世紀後半ごろのものと考えられる。F15・F16は鉄剣の刀身片、F17は鉄剣または鉄刀の茎片である。F16は流入土上層から、F15・F17は流入土最下層の床付近から出土している。J74は耳環で、金また銀張りだったものと思われるが、表面が剥落して腐食の進んだ銅地が露出している。これも流入土からの出土である。

羨道部の袖付近では、比較的大きな須恵器片などが床面付近で出土している。86～88が須恵器、89が弥生土器である。86は有蓋の短頸壺で、羨道床から20cmほど浮いて出土した。田辺編年TK209型式並行ごろのものと考えられる。87は無蓋高坏の坏部片で、床面から十数cm浮いて

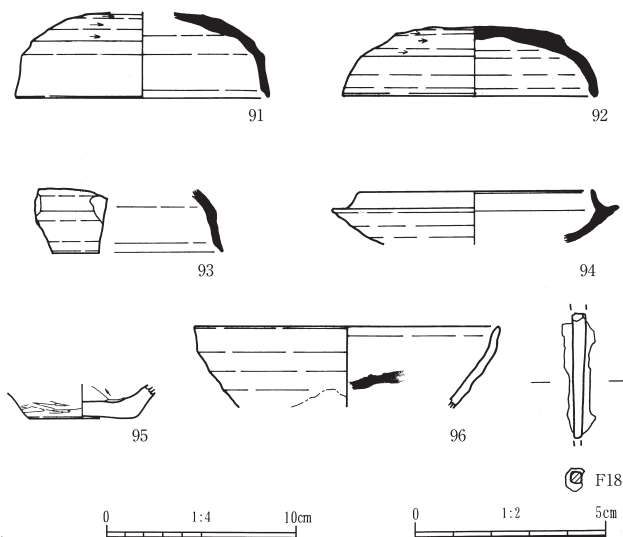
出土した。88は横瓶の体部片で、袖付近から数点、石室開口部前面から数点の破片が出土している。いずれも床面から浮いた、流土中の出土である。89は弥生時代終末期の甕または壺底部片である。28号墳下の段状遺構(後述)に含まれていた遺物が、掘り方掘削によって巻き上げられて盛土に混入したのであろう。



第56図 28号墳横穴式石室遺物出土状況図



第57図 28号墳石室内出土遺物



第58図 28号墳墳丘出土遺物

墳丘出土遺物(第58図)

石室以外からも少量の遺物が出土している。91・93は須恵器坏蓋で、91は墳丘盛土中から、93は西側壁の玄室基底石の裏込め土の中から出土した。他の古墳からの混入品と思われるものの、古墳構築の上限を示す遺物である。ともに田辺編年のTK10型式並行と考えられよう。92は須恵器坏蓋で、墳丘南西側の周溝下層から破片がまとまって出土した。遺存状態も良いので墳丘に伴う遺物の可能性がある。田辺編年TK209型式並行ごろのものと考えられる。94は古墳の南東側の斜面からの出土で、墳丘からさほど離れていないため本古墳に伴うものであった可能性があろう。田辺編年TK209型式並行ごろのものと考えられる。95・96は古墳に伴わない遺物で、95は弥生土器、96は陶器碗である。F18は鉄釘片で、盛土中からの出土である。